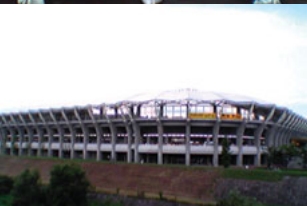
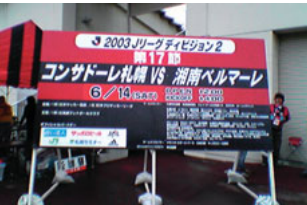


チャリこぎ スタジアム

Jリーグ観戦 自転車日本縦断記

表 英毅



『Boon-gate』のPDF作品を ご覧いただく前に…

操作について

- 作品の多くは「もくじ」のページで、進みたいページの項目を押せば、そのページまでジャンプし、また、ジャンプしたページのタイトルを押せば、目次のページに戻るよう設定しております。
- 直前に開いていたページに戻るには、画面上の「◀」ボタンで、直前に開いていたページに戻ります。

読み方いろいろ

- 通常は画面の「倍率」が100%前後になっていますが、「倍率」を150%まで高めると文字が読みやすい大きさになります。
- 通常は「見開きページ」で設定されていますが、「単一ページ」にすると読みやすく感じます。
- 読み進めるときは、「十字キー」を使用すると手軽です。
- 「サムネイル機能」を使用して読み進めると、2～3頁からとばし読みするのに便利です。
- 頁を「回転」させることが可能です。地図などを拡大して見るときに便利です。

http://www.bungeisha.com/PDF_is/05-top1.html でPDF作品についての説明を致しております。ご参照ください。

チャリこぎ スタジアム

Jリーグ観戦 自転車日本縦断記

表 英毅



文芸社

はじめに

旅がしたかった。だれもやったことがないような、自分の記憶に残るような、そして継続して実行できるような。ずっとそういう思いを漠然と抱いていた。

僕は東京にある会社に勤めている。時々、週末を利用しての小旅行には行っていたが、基本的に長期の休みをとって旅をすることは難しい。そんな実情に僕はどこか欲求不満を感じ、日々を送っていた。

2003年のゴールデンウィークを岡山の友人の家で過ごしていた時、ある旅行記のことが話題にのぼった。それは、チームを組んでアメリカ大陸を「人力で」縦断したものだ。その旅行記があまりに素晴らしく、僕の中で漠然と抱いていた欲求が騒ぎ出した。自分で汗をかいて移動して、風を感じて得られる気持ちよさを想像して、自転車で日本を一周してしまおうと思ってしまったのだ。

この時点で二つの課題があった。一つは、自転車での日本一周の旅にはまとまった時間が必要だと信じていたこと。これは発想を転換することで解決した。一度に長期の休みをとることは難しいが、普段の土日を利用し、その積み重ねで最終的には長期の休みと同等の時間が得られると考えた。つまり土日の間に自転車移動できるところまで移動して、平

日には日常に戻り、会社で仕事をする。そして次の土日に、前回自転車での移動を終了したところから再スタートする。

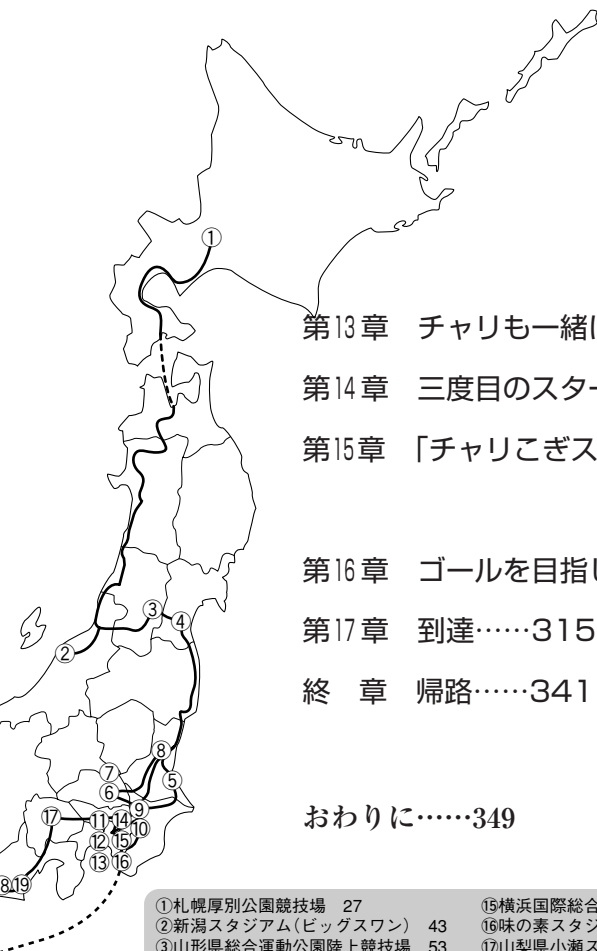
東京に帰る時に、毎回自転車を持ち帰るのは大変なので、駐輪場に預けることにした。移動地と東京との間の交通手段は、安価で速いものがよい。これを探すことには自信があった。これまでの小旅行で培った経験があったからだ。基本的には夜中に時間をかけて移動する手段が安い。また、金曜日の夜中に移動すれば、土日の日中はまるまる自転車をこぐことに使える。疲労は体力でカバーすればよい。

もう一つの課題は、自転車での日本一周はすでに多くの人が実行しているので新しさがなくなること。何か自分自身のオリジナルな味付けがほしかった。日本を巡る過程で、現地の美味しいものを食べまくるとか、温泉を訪ね歩くとか、テーマを考えていた。自分のオリジナルな部分を考えていた時、サッカーが浮かんだ。僕はTVで観戦しない日はないくらい、サッカーが好きだ。Jリーグのスタジアムを巡ってゲームを観戦するというのはどうだろうか？ 幸い、Jリーグは基本的には週末にゲームがある。仕事をしながらでも可能だ。

Jリーグのスタジアムを巡ると決めると、2002年のW杯のために各地に建設されたスタジアムの雰囲気、従来からあるスタジアムの雰囲気、各地のサポーターの応援方法、

チームがそのホームタウンにどのような影響を与えているのか、あるいは与えていないのか、など、知りたいことがたくさん浮かび上がってきた。Ｊリーグが各地域でどのような文化として浸透しているのか、自分の体で感じたかった。サッカーの魅力を人に説明できるように、試合を決めるプレーとはどういうものか、どのようにサッカーを見ればわかりやすいかを自分で理解したかった。Ｊリーグのスタジアムを訪れるという明確なテーマが見つかると、日本一周を日本ほぼ縦断に変更した。ゲームのスケジュールを考えると、スタジアムのないところにそんなに時間をかけるわけにはいかなかったからだ。

こうして「チャリこぎスタジアム」の概要が決まっていたから、もう一つの別の動機も発生した。普通に働いていても、これくらいのことではできないのだと証明したくなっただ。日常生活や仕事で疲労した人たちに、少しでも元氣を出してもらえる材料になればと思った。このような動機を持って、「チャリこぎスタジアム」を実行した。そして、２００３年６月１４日から２００４年１２月４日の約一年半にわたり、Ｊリーグ全２８チームのホームゲームを自転車で観戦しに行った。この本は、その旅の記録と試合観戦記から構成されている。自転車が好きな方、旅をしたい方、サッカーファンの方、その他全ての読者に、本書を少しでも楽しんでいただければ幸いです。



第13章 チャリも一緒に一時帰郷……235

第14章 三度目のスタート……259

第15章 「チャリこぎスタジアム」考案の地へ
……269

第16章 ゴールを目指して……295

第17章 到達……315

終章 帰路……341

おわりに……349

- | | |
|---------------------|----------------------------|
| ①札幌厚別公園競技場 27 | ⑩横浜国際総合競技場 149 |
| ②新潟スタジアム(ビッグスワン) 43 | ⑪味の素スタジアム 165 |
| ③山形県総合運動公園陸上競技場 53 | ⑫山梨県小瀬スポーツ公園陸上競技場 175 |
| ④仙台スタジアム 61 | ⑬ヤマハスタジアム 191 |
| ⑤県立カシマサッカースタジアム 71 | ⑭静岡スタジアム エコパ 197 |
| ⑥埼玉スタジアム2002 81 | ⑮名古屋市瑞穂陸上競技場 209 |
| ⑦さいたま市大宮公園サッカー場 85 | ⑯京都市西京極総合運動公園陸上競技場兼球技場 233 |
| ⑧水戸市立競技場 93 | ⑰神戸ウイングスタジアム 243 |
| ⑨柏の葉公園総合競技場 101 | ⑱長居スタジアム 257 |
| ⑩市原臨海競技場 107 | ⑲万博記念競技場 267 |
| ⑪横浜市三ツ沢公園球技場 119 | ⑳広島ビッグアーチ 293 |
| ⑫平塚競技場 127 | ㉑東平尾公園博多の森球技場 313 |
| ⑬味の素スタジアム 137 | ㉒鳥栖スタジアム 323 |
| ⑭等々力陸上競技場 143 | ㉓大分スポーツ公園総合競技場(ビッグアイ) 339 |

はじめに……3

序 章 スタート前に……9

第1章 波乱のスタート……15

第2章 山、山、山……45

第3章 いざ、関東平野へ……63

第4章 関東平野巡回……73

第5章 おだやかな房総半島……95

第6章 海を渡って横浜へ……109

第7章 2003シーズンの^{フィナーレ}終幕……129

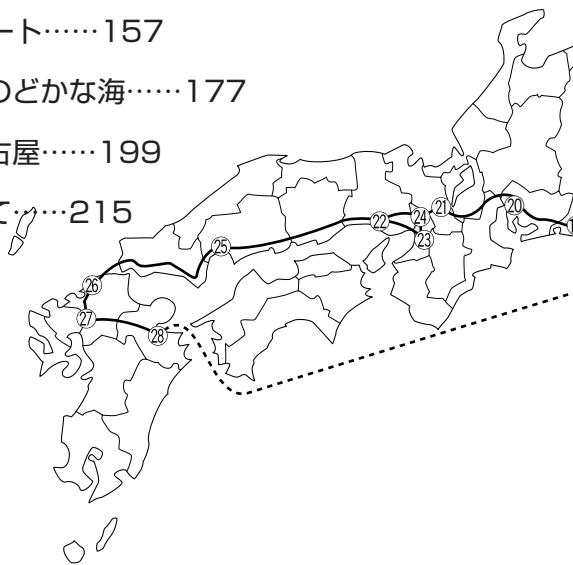
第8章 休息……そして再スタートへ……153

第9章 さあ、再スタート……157

第10章 日本一の山とのおどかな海……177

第11章 青春の地、名古屋……199

第12章 関ヶ原を越えて……215



序章

スタート前に

1. 自転車の旅を考えた

2003年5月2日（金）――

GWも終わりに近づいた頃、ふと旅に出ようと考えた。自転車で日本を一周したいと思った。でもただ一周するのでは面白くない。何をするかを考えながらも自転車の旅で出会うことに思いを馳せると、ワクワクしてきた。この自転車での旅は、仕事をしながら行うつもりなので完遂するまでには時間がかかるだろう。

2. サッカーが好きだ

2003年5月3日（土）――

旅に合わせて何か好きなことをやってみたい。好きなことって何だろう？

僕はサッカーが好きだ。Jリーグのスタジアムへ試合を観戦しに自転車で訪ねてみよう。W杯を契機に各地に建設されたスタジアムを見てみたい。各スタジアムで展開される

ゲームとサポーターの喜びを体感してみよう。

しかし、僕自身の仕事、試合の日程、自転車での移動時間を考慮すると、今(2003)シーズンだけでは完遂できないな。シーズン終了後、昇格するチームと降格するチームがあることを考えると、J1、J2両方、すべてのスタジアムを最初から訪れるつもりでいた方がいいな。

3. ルートを検討

2003年5月4日(日)――

2003年5月現在、J1、J2合わせて総勢28チームある。28のホームスタジアムをほぼ北から順に訪ねることにし、以下のようなコースを設定した。

札幌↓仙台↓山形↓新潟↓大宮↓浦和↓柏↓水戸↓鹿島↓市原↓湘南↓横浜FC↓横浜
F・M↓川崎↓東京V↓FC東京↓甲府↓清水↓磐田↓名古屋↓京都↓C大阪↓G大阪
↓神戸↓広島↓福岡↓鳥栖↓大分

おそらく最も困難だと予想されるのが最初の札幌→仙台。このコースはあくまで現時点での予定で、実際に訪れる時の試合の日程などにより、若干の変更はあると考える。

4. 準備は万端

2003年6月1日(日)――

この旅は主に休日を利用して、自転車でスタジアムからスタジアムへ移動するものである。僕は普段東京で仕事をしているので、休日ごとに、前回自転車が進んだポイントまで電車などで行き、そこから次のスタジアムを目指して自転車で移動するつもりである。

これまでの準備の内容について簡単に記したい。まず、行程、ルート、スタート地点(札幌)への移動手段、宿泊先の詳細について決めた。続いて、旅に必要なアイテムを準備した。



本日の支出

- | | |
|--------|--------|
| ・バイク手袋 | 2,500円 |
| ・輪行バッグ | 7,500円 |
| ・さび止め | 520円 |

合計	10,520円 (累積費用10,520円)
----	-----------------------

5. 北斗星でスタート地点、札幌へ出発

2003年6月13日（金）――

いよいよスタート前日になった。今日、16時50分上野発の北斗星1号に自転車を乗せて札幌に向かう。仕事を早めに切り上げて、輪行バッグに入れた自転車を持って上野駅に向かった。が、これが思ったより大変だった。地下鉄日比谷線の上野駅からJR上野駅まで、自転車を持って階段を上がるのは結構な重労働だった。自転車を輪行バッグに入れているため、かえって本来の重量以上に重さを感じてしまうのだ。北斗星の発車ホームに辿り着いた時には汗だくになってしまっていた。

列車内の通路に邪魔にならないよう自転車を置かせてもらい、中に入った。僕がとつた席はB寝台の二段ベッドだ。本当は自転車を入れるため個室がよかったのだが（B寝台の個室が同じ値段で提供されている）、予約時にはすでに売り切れていた。まあ、二段ベッドも悪くない、と思っていたら、二つほど離れた席からタバコの煙が漂い始めた。禁煙車を予約していたはずなのに……。よく見ると壁に「寝台使用中は禁煙」と書いてある。うゝむ。JRさん、意味がわからないよ。なんか騙された気分だよ。まあ、自転車を通路に置

かせてもらっているのです、よしとしよう。
さあ、とにかく今日、寝て起きたら、いよいよ本格的にスタートだ。



本日の支出

- ・北斗星B寝台(東京→札幌) 25,270円
- ・夕食 480円
- ・飲み物 200円

合計 25,950円 (累積費用36,470円)

1. スタート!

2003年6月14日(土)――

9時35分。北斗星が札幌駅に到着した。そして10時、この札幌駅をスタート地点に設定し、いよいよ「チャリこぎスタジアム」が本格的にスタート!

まずは長旅に備えて、自転車屋さんの力を借り、自転車の調整を行った。自転車屋さんのおじいさんはご年配のため仕事は遅いが、その代わりしっかりと調整してくれた。この頃、札幌市内は大雨。

続いて腹ごしらえ。北海道らしくやっぱりラーメンになってしまった。でも普通のラーメンだとあまりにも定番なので、「ざるラーメン」なるものを食べた。店のご夫婦の話だと札幌に雨が降るのは久しぶりらしい。恵みの雨とおっしゃっていたが、こっちはまさに水をさされた格好だ。北海道には梅雨はないと聞いていたが、必ずしも雨が降らないというわけではないようだ(当たり前か)。

12時頃雨がやんだので、札幌駅から約10kmの厚別公園競技場に向けて、改めて出発!

国道12号線に入ればいいと駅のインフォメーションで確かめていたのだが、のっけから



道を間違えてしまい、その後、人に道を聞きながらようやく試合会場に辿り着いた。たぶん5 kmは遠回りしてしまった。本日の観戦はJ2第17節 コンサドーレ札幌VS湘南ベルマーレだ。

観戦後、16時に試合会場を後にして大急ぎで国道36号線に入り、約60 km先の苫小牧までひたすらこぎ続けた。日没までには苫小牧に着かなくてはならない。残された時間は約3時間だ。

試合会場が寒かったこと、久しぶりに自転車をこいだことで疲れてしまった。そんな時にサッポロビールの工場見学の見学看板が目に入ってきた。こんなにそえられることはない。ここで実はハンガーノックダウン（要するに腹が減って力が出ない状態）になっていることに気づき、コンビニであんパンとジンジャーエール（ビールは我慢）を購入した。

南千歳を過ぎた頃から信号が少なくなり、快適に進んだ。しばらく行くと、左手にとても美しい川が流れている。名前は実に「美々川」。この川はウトナイ湖につながっている。水のある風景が好きな僕は、すでに苫小牧市に入っていたこともあり、ウトナイ湖で時間を費やすことにした。ここにはなんと白鳥が放し飼いにされていて、しかも人が近づいて

札幌↓新潟

も全く逃げないのだ。

ウトナイ湖で遊びすぎたせいで、苫小牧の中心街に着くのが予定より30分も遅れてしまった。ウトナイ湖から予想以上に距離があったからだ。市街地に着く前、フェリーの看板を見つけた時は、つい乗って、このまま仙台に向かってしまいたい欲求にかられた。まあ、それをせずになんとか市街地に着き、駅近くのホテルに飛び入りした。その後、夜ご飯。明日は今日以上に自転車をこぐことになるので、疲れをとるために早く寝ることにしよう。

2. 風と坂とトンネルと

2003年6月15日(日) —



本日の支出

・自転車調整費	2,000円
・朝食	600円
・観戦チケット(SA席)	2,800円
・昼食	250円
・宿泊費	4,200円
・夕食	680円
合計	10,530円 (累積費用47,000円)



本日の走行距離

71km(累積走行距離:71km)



5時半に目がさめたのに二度寝してしまい、結局、6時半に起床。7時にチエックアウト。コンビニで朝ご飯と携帯食料を購入し、7時半頃から本格的にこぎだした。

今日は晴れた。まず国道36号に入り、登別を経由して室蘭に向かう。続いて室蘭から国道37号を西に長万部を目指す。

36号をしばらく行くと左手に海が見えてきた。今日はずっと海とお付き合いする予定だ。ところが海の方はあまりその気はないらしく、白老から登別を過ぎるまで結構な風を吹きつけてくれた。これが前半の最大の敵になる。

牧場で馬を見たり、札幌から100km地点で写真を撮ったりして休憩を多めにとりながら進んだ。朝ご飯は8時半頃、海辺で食べた。ゆっくり進んでいてもこぎ続ければ必ず目的地に辿り着くもので、11時過ぎには室蘭を通過し、お昼ご飯。味噌ラーメンと餃子。

この時点で長万部まであと77km。このペースなら長万部を通過して八雲まで行けるかもしれないと思った。

しかし、そんなに話は甘くなかった。伊達紋別を過ぎ豊浦に入った頃から急激に道はアツプダウンが増え始めた。100km以上こいできてからこの上りの繰り返しはきいた。当然上れば下りもある。僕は今日この下りを「ご褒美」と心の中で呼んでいたのだが、ご褒美

札幌↓新潟

はあっという間に過ぎてしまうのだ（下りは速いから）。だんだんストレスがたまっていく。消費する水の量も増え、追加で3本購入した。

極めつけは、大岸から静狩の間にある数限りないトンネルだ。この区間は豪快な上りでもある。通常、トンネルでは必ず歩道を走るようにしている。しかし、この区間に存在するトンネルの中の歩道はものすごく狭く、車道に落ちないためには押して歩くしかなかった。歩道を歩いていても隣をトラックが通るとやはりドキッとすする。歩道が狭く短いトンネルも複数あり、そんな場合は後ろから車が来ないことを確認して一気に全力でこぐ。そこが上りだと足にとてもダメージになる。結局、今日一番嫌だったのはこのトンネルの多さだった。

しかし最後は大きな褒美をもらうことになった。静狩から約10kmも下りが続いたのだ。そして長万部までは



本日の支出

・朝食	722円
・昼食	1,000円
・飲み物	300円
・宿泊費(夕食付き)	7,000円
合計	9,022円 (累積費用56,022円)



本日の走行距離

142km (累積走行距離: 213km)

延々まっすぐの走りやすい道。左手にはまた海が戻ってきていて、今度は穏やかな風景になっけてくれた。

長万部に着くと迷うことなく宿を探した。八雲まではとてもこぎ続けるパワーはなかった。宿は露天風呂温泉十豪勢な夕ご飯付き。ちよつと高めだが、ご飯もお風呂も素晴らしかった。

3. さらに北海道

2003年6月16日(月) —

今日こそは5時に起きた。仕事は年休をとった。5時半に宿をあとにして、出発。

朝ご飯と飲料をコンビニで購入して、国道5号を函館に向けてこぎだした。止まっていると気づかない程度に雨が降っていた。この日はメガネをしていたので1km走る度にメガネをふいた。途中、パソコンを防水処理していなかったことを思い出し、念のため、ビニール袋に入れた。20kmほど進むと雨もやんできた。長万部から31km過ぎた八雲で朝ご飯を食べた。

札幌↓新潟

次の目標は森だ。ここで海（内浦湾）とお別れになるのでよく見ておこうと思っていたのだが、路側帯が狭いのと工事が多かったので、そんな余裕はなかった。森を通過すると、いよいよ函館まで40kmを切る。最後の難関（と聞いていた）大沼に至る上り坂に入った。しかしここはむしろ楽だった。それまでもじわじわ上っていたのだろう。上りが思いのほか少なく、楽しい長い下りが待っていた。大沼を過ぎ、残り27kmから24kmくらいまで一気に下る。その後もじわじわと下り、残り19km。函館新道の手前まで辿り着いた。振り返ってみて、この下りを逆に上るはめになっていたらと思うと、少しぞっとした。

もうここまで来れば、何があっても函館に辿り着く、と油断したのがいけなかった。ここからの函館新道が曲者だった。函館新道は自動車専用道路なので、自転車はすぐ横を走っている側道を通ることになる。高速道路脇の側道は下道と交差しているため、アップダウンの繰り返しだったのだ。全ての難関を通り抜けたと思っていたため、なおさらこのダメージは大きかった。加えてすぐ横を走っている高速は少しも上りになっていないのだ。函館新道を作った誰かがとてもうらめしかった。しかし、やはりこぎ続けば少しでも進むもので、なんとか函館市に到達した。

12時ちょっと前。疲れていたもので、市内観光をせずさまふエリー乗り場に向かっ

た。先輩から「長谷川ストアの焼き鳥弁当（焼き鳥のになぜか豚）がうまいよ」と聞いていたので探したのだが見つからなかった。残念。お昼ご飯はモスバーガーとなった。フェリー乗り場で青森行きの切符（自転車代含む）を購入し、14時20分に乗船した。自転車は車を置くエリアの壁にひもで括り付けられた。

14時50分、函館出航。今回は上らなかつた函館山をじっと見ていた。さらば北海道。今度は札幌ドームにぜひとも訪れたい。

4時間近くの船旅の半分は爆睡していた。それでも青森に着く前には船上に出た。実は、僕は青森に来るのは初めてだ（3日前に北斗星で通過してはいるが）。他には、今まで秋田と高知に行ったことがない。でも秋田は「チャリこぎ」で通ることになるので、あとは高知だけだ。いつか訪ねよう。

船を下りる時、競走馬に乗せた車両が乗っていたことに気づいた。他に牛もいる。さすが北海道からの船だ。

青森駅までの4.5kmをこぎ、東京までの高速バスのチケットを購入。往復なら片道1500円安いのだが、有効期限が7日間なので断念。市内で銭湯を探したがどこに行っても休みだ。しかたない。明朝、仕事前に一度家に帰ってシャワーを浴びよう。

札幌↓新潟



フェリーで青森へ

夜ご飯はガストで一杯飲みながら食べた。友達と電話で話しながら、北海道シリーズ終了の喜びを伝える。

21時50分、東京行きのバスに乗りこんだ。ささて、明日は仕事だ。ぐは。

札幌
↓
新潟



本日の支出

・朝食と飲み物	650円
・昼食	798円
・フェリー(函館→青森)	2,560円
・高速バス(青森→東京)	10,000円
・夕食(酒も含む)	1,470円
合計	15,478円 (累積費用71,500円)



本日の走行距離

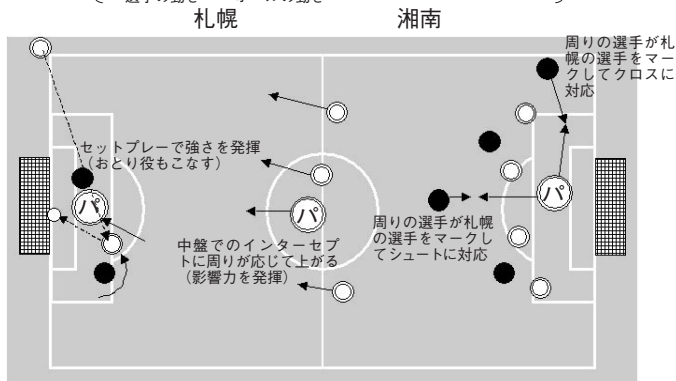
109km(累積走行距離:322km)

チームの大黒柱としての彼のプレーを分析してみたい。

1. 札幌のシュートには必ず反応し、体にボールを当ててはじいている。
2. 札幌のセントリングやアーリークロスのはじき返している。
3. 1と2のプレーは湘南のDFが全体的に下がっている時によく表れている。つまり、他のDFにコースを限定させておき、札幌の入れるボールに真っ先に対応するという特徴がある。
4. 前半、彼が中盤でインターセプトして上がる姿勢を見せると、それまで下がっていた周りの選手が呼応して上がり、シュートチャンスを作った。しかも彼は姿勢を見せただけで実際には上がらない。周りの選手に大きな影響を与える選手だということを示している。
5. ヘディングの強さを活かしてセットプレーで得点チャンスを生み出す。実際に、札幌のゴール前でパラシオス選手がボールを競っていたため、後方からの湘南のDF井原選手の進入に、札幌のDFの対応が遅れたことで湘南の得点は生まれた。

パラシオス選手のプレー

(●札幌の選手 ○湘南の選手 (◎はパラシオス選手) ○ボール)
→選手の動き ⇨ボールの動き



J2 第17節 コンサドーレ札幌vs湘南ベルマーレ	
2003年6月14日（土）曇り時々雨 14:03キックオフ	
札幌厚別公園競技場	入場者数 8,086名
コンサドーレ札幌 1 - 1 湘南ベルマーレ	
得点者 ビタウ：1（39分）	井原康秀：1（53分）

1. スタジアムの雰囲気

ほとんどが札幌のサポーターだった。湘南のサポーターは30～50人ぐらいだったのではないだろうか。競技場のアナウンスが、この少数の湘南サポーターにも来場への謝意を表していたことに好感が持てた。札幌のサポーターは若い人ば



スタジアム入り口

かりではなく年長の方も多く来場していて、街ぐるみでチームを応援している様子が見てとれた。しかもこの人たちはとても熱かった。でも逆に今日の気候はとても寒かった。天候が回復しきらなかったこともあり、風がとても冷たく、観戦するにはつらかった。

2. 注目ポイント

試合を通して活躍したのが湘南のDFパラシオス選手だ。今回は

途中省略

本編はダウンロード時間短縮のため省略版でお届けしています。
途中省略なしの完全版をご希望の方は製品版をご「購読」ください。

著者プロフィール

表 英毅 (おもて ひでき)

1973年11月 埼玉県生まれ。

2003年5月 「チャリこぎスタジアム」を考案。

2003年6月 「チャリこぎスタジアム」を実行にうつす。

2004年12月 自転車で日本を縦断しながら、Jリーグ全28
チーム(当時)のホームゲームを観戦終了。

現在、日本テレコム(株)に勤務。移動通信の研究に従事。
日本フットボール学会員。

チャリこぎスタジアム Jリーグ観戦自転車日本縦断記

2005年10月15日 電子出版発行

著者 表 英毅

発行者 瓜谷 網延

発行所 株式会社 文芸社

〒160-0022 東京都新宿区新宿1-10-1

電話 03-5369-3060 (編集)

03-5369-2299 (営業)

<http://www.boon-gate.com>

© Hideki Omote 2005 Corded in Japan

ISBN4-286-00182-2

(文芸社発行の通常書籍(紙の本)については、全国書店でお尋ねいただくか、「文芸社ON-LINE」
サイト <http://www.bungeisha.co.jp> を御参照ください。)

新 05.09.28 Y.H.